★学校の教育目標		○よく考える子ども ○なかよくする子ども ○がんばりぬく子ども ○からだをきたえる子			★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		「みんなの笑顔が輝く学校」「地域の風が行き交う学校」「子供も大人も安心して活躍できる学校」			➡あさひっこ「安心できる学校」プロジェクト 子供も大人も安心して活躍できる学校づくり 【設定理由】 ・自己有用感や自己肯定感を高め、自信をもって表現できるようになってほしい。 ・素直で優しい良さをもっているが、困難なことに対して挑戦し乗り越える力を付けてほしい。 ◎分かる・できる授業改善(UD)、居心地の良い学級・学校づくり(SD) ◎多様な他者との交流による他者理解、地域と連携した学習 ○児童の主体性を育み、活躍する場の拡大
【目指す児童像】	○課題を見付け、解決する力を伸ばす児童 ○思いやりの気持ちをもち、人間関係を築ける児童 ○自分の目標に向かって、最後までやり遂げる児童 ○運動に親しみ、自らの健康に向かう児童				
【目指す学校像】	○児童が互いに学び合い、成長する学校 ○児童が安心して自分の良さを発揮できる学校 ○教職員がプロ意識をもち、達成感を味わえる学校 ○学校・保護者・地域が連携し信頼し合う、開かれた学校				
【目指す教師像】	○明るく前向きで、心身ともに健康な教師 ○子どもを認め、褒めて伸ばす、人間性豊かな教師 ○指導力向上のために努力する、プロ意識をもった教師 ○保護者・地域と連携し、児童の健全育成にあたる教師				

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準	
				取組指標	成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 学びの羅針盤・創造	【8+プロジェクト】 学びの変革	○学校図書館を有効に活用し、児童が目的に応じた資料や本などを選び、紙文化の良さにも触れながら、主体的に探究型の学習等を進められるようにする。 ○探究的な学習では、取組の過程で励ましの声掛けや適切なフィードバックを行い、自己の課題解決に向けて、粘り強く取り組めるようにする。 ○アクティブスポーツやスポーツ月間などを通して、運動に親しみ、自己の目標の達成や体力向上のために最後までやり抜けるようにする。さらに、自主的な学びや取組を継続できるような投げ掛けを工夫する。	4 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が90%以上	4 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が90%以上
		変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く姿	○校内研究会やOJT等、年間を通じた研修機会を設定し、教員同士が学び合うことで指導力の向上を図り、「分かる・できる」授業を展開できるようにする。またお互いの授業を見合える環境を整える。 ○組織的な取組を重視し、迅速に報告・連絡・相談を行うことで、早期に問題の解決を図れるようにする。 ○情報発信・共有の場を拡大することで、家庭や地域との関わりを深め、開かれた学校づくりに貢献できるようにする。 ○CSとも連携して、家庭教育の重要性について、話し合う場や機会を設ける。	3 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が80%以上	3 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が80%以上
		【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 教職員の挑戦	○校内研究会やOJT等、年間を通じた研修機会を設定し、教員同士が学び合うことで指導力の向上を図り、「分かる・できる」授業を展開できるようにする。またお互いの授業を見合える環境を整える。 ○組織的な取組を重視し、迅速に報告・連絡・相談を行うことで、早期に問題の解決を図れるようにする。 ○情報発信・共有の場を拡大することで、家庭や地域との関わりを深め、開かれた学校づくりに貢献できるようにする。 ○CSとも連携して、家庭教育の重要性について、話し合う場や機会を設ける。	2 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が70%以上	2 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が70%以上
		目指す学校像に向け、チームとして挑戦し、成長を実感する姿	1 児童に目標をもたせ、最後まで取り組めるように支援・指導した教員が70%未満	1 児童アンケートで「自分の目標に向かって最後まで取り組めた」と答える児童が70%未満	
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 インクルージョン	【8+プロジェクト】 多様な学びと学び方	○道徳授業や日常的な指導の積み重ねにより、自他ともに大切にすることを育成し、良好な人間関係が築けるようにする。 ○たてわり班活動、異学年交流、幼稚園・保育園・障害のある方や高齢者等、多様な人との交流を通して、自分と他者を理解し認め合うことができるようにする。アスリートとの交流等、デフリンピックに関連した取組を行う。 ○校内研究では算数を研究教科とし、対話的な学びの良さを実感させ、安心して自分の考えを表現できるようにする。また、間違えによって学習が深まることを繰り返し指導する。	4 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が90%以上	4 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が90%以上
		自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する姿	○どの児童にとっても居心地の良い学級・学校となるように環境を整える。(ひのSD)特に学校が楽しくないと回答している児童の原因を把握し、適切な支援を行う。 ○ユニバーサルデザインの視点(時間の構造化、情報伝達の工夫、参加の促進、内容の構造化等)を取り入れ、どの児童も分かる・できる授業を実践する。 ○登校渋り等が見られた場合は、すぐに校内支援委員会を開き、その児童に合ったきめ細やかな支援について協議する。 ○一人一役の分担システムにしたり、いろいろな児童に代表等を経験できるように工夫したりする。	3 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が80%以上	3 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が80%以上
		【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 居場所・活躍	○どの児童にとっても居心地の良い学級・学校となるように環境を整える。(ひのSD)特に学校が楽しくないと回答している児童の原因を把握し、適切な支援を行う。 ○ユニバーサルデザインの視点(時間の構造化、情報伝達の工夫、参加の促進、内容の構造化等)を取り入れ、どの児童も分かる・できる授業を実践する。 ○登校渋り等が見られた場合は、すぐに校内支援委員会を開き、その児童に合ったきめ細やかな支援について協議する。 ○一人一役の分担システムにしたり、いろいろな児童に代表等を経験できるように工夫したりする。	2 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が70%以上	2 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%以上
		安心できる学校	1 児童が互いを認め合い、安心して表現できる環境を整えた教員が70%未満	1 児童アンケートで「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%未満	
社会と未来に開き、みんなで作る	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 対話・協働	【8+プロジェクト】 子供たちがつくる学校	○授業展開の中で、友達との対話を通して考えを深める時間を意図的に設定し、振り返り活動を通して、自分の考えの深まりを実感できるようにする。ミライシードによる考えの全体共有等、ICTを積極的に活用する。 ○特別活動や学級活動等で、児童が主体的に話し合う場面を設定する。話し合いでの決定事項に対しては、全員が協働的に取り組めるように支援する。 ○委員会活動では学校に役立つ児童発の取組について、学級活動では学級をよくする児童発の取組等について話し合う。	4 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が90%以上	4 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が90%以上
		自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越えて協働する姿	○地域人材を活用した学習(旭が丘商工連合会、あさひボランティアによる学習支援、農家の方による栽培活動、地域企業による出前授業・見学等)を推進する。また、その成果を保護者やS地域に積極的に発信し良好な関係を築く。 ○CSによる雑木林の整備、どんぐりクラブの方のご指導、見直した年間活動計画等により、SDGsの取組や生活科・総合的な学習の時間「あさひタイム」の充実を図る。 ○地域行事への児童の参加や協力等を積極的に促し、人的交流を盛んにすることで、地域の風が行き交う学校を推進する。	3 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が80%以上	3 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が80%以上
		【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 多様な参画	○地域人材を活用した学習(旭が丘商工連合会、あさひボランティアによる学習支援、農家の方による栽培活動、地域企業による出前授業・見学等)を推進する。また、その成果を保護者やS地域に積極的に発信し良好な関係を築く。 ○CSによる雑木林の整備、どんぐりクラブの方のご指導、見直した年間活動計画等により、SDGsの取組や生活科・総合的な学習の時間「あさひタイム」の充実を図る。 ○地域行事への児童の参加や協力等を積極的に促し、人的交流を盛んにすることで、地域の風が行き交う学校を推進する。	2 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%以上	2 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%以上
		子供たちがつくる学校	1 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%未満	1 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%未満	
社会と未来に開き、みんなで作る	【子供と大人の10+の姿】 みんなの姿 対話・協働	【8+プロジェクト】 子供たちがつくる学校	○授業展開の中で、友達との対話を通して考えを深める時間を意図的に設定し、振り返り活動を通して、自分の考えの深まりを実感できるようにする。ミライシードによる考えの全体共有等、ICTを積極的に活用する。 ○特別活動や学級活動等で、児童が主体的に話し合う場面を設定する。話し合いでの決定事項に対しては、全員が協働的に取り組めるように支援する。 ○委員会活動では学校に役立つ児童発の取組について、学級活動では学級をよくする児童発の取組等について話し合う。	4 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が90%以上	4 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が90%以上
		自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越えて協働する姿	○地域人材を活用した学習(旭が丘商工連合会、あさひボランティアによる学習支援、農家の方による栽培活動、地域企業による出前授業・見学等)を推進する。また、その成果を保護者やS地域に積極的に発信し良好な関係を築く。 ○CSによる雑木林の整備、どんぐりクラブの方のご指導、見直した年間活動計画等により、SDGsの取組や生活科・総合的な学習の時間「あさひタイム」の充実を図る。 ○地域行事への児童の参加や協力等を積極的に促し、人的交流を盛んにすることで、地域の風が行き交う学校を推進する。	3 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が80%以上	3 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が80%以上
		【子供と大人の10+の姿】 学校の姿 多様な参画	○地域人材を活用した学習(旭が丘商工連合会、あさひボランティアによる学習支援、農家の方による栽培活動、地域企業による出前授業・見学等)を推進する。また、その成果を保護者やS地域に積極的に発信し良好な関係を築く。 ○CSによる雑木林の整備、どんぐりクラブの方のご指導、見直した年間活動計画等により、SDGsの取組や生活科・総合的な学習の時間「あさひタイム」の充実を図る。 ○地域行事への児童の参加や協力等を積極的に促し、人的交流を盛んにすることで、地域の風が行き交う学校を推進する。	2 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%以上	2 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%以上
		子供たちがつくる学校	1 児童が自分たちで考え学び合う授業や活動を実施する教員が70%未満	1 児童アンケートで「友達と話し合って考えが深まった」と答える児童が70%未満	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。